



私たちが重要だと感じた3つのキーワード



ファシリテーション



アドボカシー



アウトカム

## STVトレーニングセミナー(Stop the Violence ACTIVATE Event)



### STVキャンペーンのはじまり

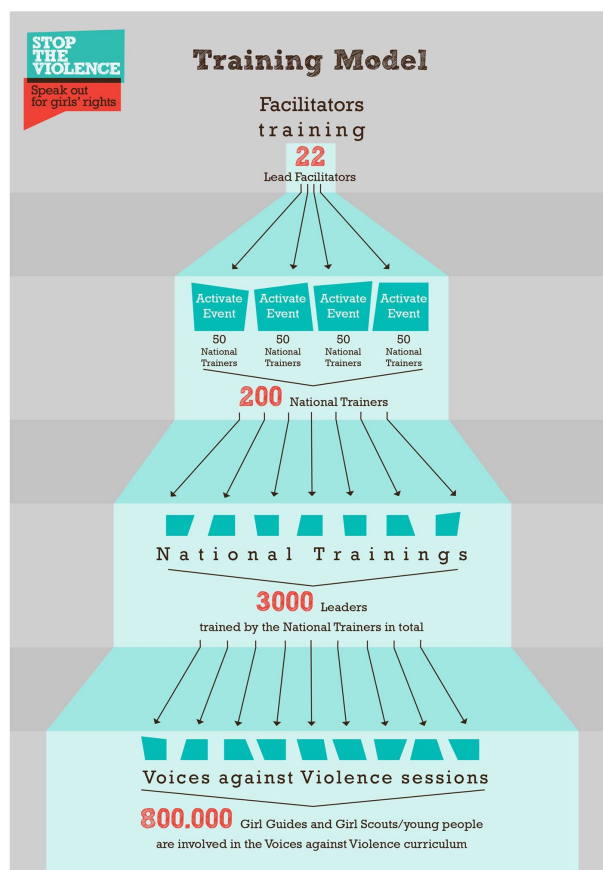
2011年の世界会議において、100カ国以上30万人の少女と若い女性に対する暴力をなくすことに2021年まで取り組むと決めました。日本では、2012年から中学生以上を対象に「デートDV」に焦点をあて、プログラムやキャンペーンを行い、国内外で一定の評価を受けています。

### トレーニング概要

期間:2014/12/12-17

場 所:インド・サンガムワールドセンター  
 参加者: 7カ国(フィリピン、韓国、インド、フィジー、スリランカ、マレーシア、日本)46名

現在、WAGGGS・UN Women・Zonta Internarionalが、パートナーシップを組み、女の子に対する暴力をなくすための教育に力を入れています。まず、右の図の様に世界中で、指導者を養成します。今回、私たちが受けたトレーニングは、上から2段目の50/200人の部分です。日本からは9名、参加しました。



### WAGGGSのSTVプログラム

世界で起きている女の子に対する暴力に焦点が当てられており、その暴力は、大きく8つあります。日本では、馴染みのない暴力もありますが、世界で起きている問題を知り、社会を変えるために、どの暴力についても学びます。更に、年代に応じたプログラムも用意されています。それは、5歳～25歳が対象で、4つの年代に分けたアクティビティプログラムが用意されています。そして、その国で特に力を入れる課題にも取り組みます。6つのステップを取組み、行動することで、バッジも取得できます。

## WAGGGSが考える8つの 「少女と若い女性に対する暴力」

- 1.家庭内暴力(DV) Domestic violence and children
- 2.セクシャルハラスメント Sexual harassment
- 3.性的暴力 Sexual violence
- 4.デートDV Dating violence
- 5.性的対象にされる少女 Sexualisation of girl
- 6.女性器切除 (FGM) Female genital mutilation
- 7.児童婚 Early and forced marriage
- 8.人権侵害としての女性や少女に対する暴力  
Violence against Women and Girls as a Human Rights Violation

## 年代に応じたプログラム

このプログラムは、年代別プログラムが用意されていて、それぞれの年代のグループで異なるテーマの暴力をについて取り組みます。

- Early 5歳～9歳 ・ Younger 10歳～15歳**  
**Middle 16歳～18歳 ・ Older 18歳～25歳**



WAGGGS Voices against Violence badge

## WAGGGSのSTVプログラム 6つのステップ



始める



考える



理解する



支援する



声をあげる



行動を起こす

※このプログラムは、WAGGGSが発表しているものです。日本で実施の形態は今後検討されます。

## プログラムの例



### 5-7歳 ●この道具を使うのは誰？

家庭のなかで使う様々な道具は、誰が使うものだと思うかを問いかけます。

例えば、ヘアブラシ・アイロン・ノコギリ・フライパン...それを使うのは、お父さん、お母さん？お姉さん、お兄さん？ この年代では、社会的性差(ジェンダー)による役割と、社会的性差による固定概念が作られるであろう家庭における課題をテーマとしている。

### 7-11歳 ●フレンドシップブレスレット

参加者同士は、まるで、すごく仲の良い友達のように、いろいろな人と挨拶をする。「仲良し」とイメージすると、普段と違った挨拶になる。仲良しになるには、何が必要かを考える。そして、良い友人とはどんな関係か、将来どんな関係を築きたいかなどについて話し合う。



### 17-25歳 ●どうして、彼女は別れないのか。

グループで、デートDV、家庭内暴力、児童婚など様々な形の暴力について考える。暴力の原因は、どこにあるのかを考える。人型を描き、「心」では、女性はどう感じているか、「頭」では、何を考えているか、「目」や「耳」では、何が見えて(医者、家族、先生など)どのようなアドバイスを受けられるか、「足」では、どこに助けを求められるかを話し合う。



### 12-16歳 ●安全な場所

町の中で、安全だと思ふ場所、そうでない場所について話しあう。列を作り、1人で歩いてみたり、2人で歩いてみる。歩かない人は声をかけてはいけない。その時、どう感じたかを共有する。そして、どうしたら、住民が、安全な場所だと感じる事が出来るかについて、話し合う。



すべての年代で、それぞれの年代に応じた  
キャンペーンをしよう！





## チャイルドプロテクション

このプログラムを進めるにあたり、必要なことの一つとして「チャイルドプロテクション」があります。子どもにとって話しやすい、参加しやすい「安全な場所づくり」も重要な要素の一つだと学びました。そして、子どもを守るだけでなく、団体や指導者、保護者も守る大切なものとなります。

## 日本の取り組みを発表

私たちは、日本の取組について、プレゼンテーションの機会を頂きました。日本では2012年から、シニア(中学生)以上を対象に「デートDV」をテーマに取り組んできました。オンラインプログラム、マイボイスシート、研修会、NPOや政府とのパートナーシップは、大変高く評価されました。また、参加者にマイボイスシートに参加してもらいました。

## ファシリテーション

ノンフォーマル教育において、ファシリテーションスキルは、とても重要であることを学びました。意見を交わしながら学ぶことで、その経験が自分自身の知識や技術になります。そして、「行動する」ことに繋がりがやすくなります。

## アドボカシー

WAGGGSのアドボカシーとは？

アドボカシー(声に出す)は、私たちや他の人々の生活をより良くするために人々に影響を与えること

世界を変える、世界に影響を与えるアドボカシーは、今回のプログラムでも重要な言葉の一つです。アドボカシーの理解は難しい印象ですが、確認しながら、効果的に行動できる方法を学びました。次項の様なシートを使い、整理して行動することで、次に挙げるアウトカムについても成果を出していけると感じました。書き出すことで、整理でき、目標や目的が明確になります。



サンガム スタッフ



トレーニングメンバー



日本のメンバー



アクティビティの様子



地域訪問

## 行動を起こす前に... 書き出してみよう!!

プロジェクト名:	
目標 Goal	
目的 Objectives	
成果・質 Outcomes	
数 Output	

何が心配か	なぜ心配か 理由は...	どうしたら 変えられるか	誰が力に なってくれるか	誰に 焦点をあてるか

行動を起こす時、いつもこのリストを使うと、考え方を整理でき、何が足りないか見えてきます。ぜひ活用して下さい！



### アウトカム

最近、ガールスカウトのプログラムでは、具体的な数値目標が示されたり、その目標に向かい、行動することが増えてきたように感じます。具体的数字が掲げられることは目標もでき、行動しやすい一面もありますが、数だけを意識して、伝えたいこと、成果の確認ができていないのかどうか、疑問に感じました。実践したことを評価するためには、その結果や影響を知る必要があります。

そして、**数(アウトプット)だけではなく、成果・質(アウトカム)も測ることが重要であることを学びました。**

今回のトレーニングを受けた日本のメンバーは、2016年12月までに、270人に伝えるという使命があります。私たちは、日本でのプログラム実施に向け、検討や準備を始めます。

参加者: 白井奈々江(群馬県)・住吉香奈(埼玉県)・菅原朱美(千葉県)・宮次励来(東京都)・篠宮さおり(神奈川県)

青木有澄(静岡県)・木村侑加(奈良県)・河合千尋(理事)・山崎知子(事務局)